

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	希釈式自己血輸血は周術期同種血輸血の回避に有用か		
2. 対象患者	当院で施行された手術に際し希釈式自己血輸血の依頼のあった患者様		
3. 対象となる期間	2008年 4月 1日 ~ 2017年 12月 31日		
4. 実施診療科等	麻酔科学講座		
5. 研究責任者	氏名	斎藤淳一	所属 弘前大学医学部附属病院 集中治療部
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)			
7. 研究の意義	希釈式自己血輸血の有用性と安全性を立証し、希釈式自己血輸血の普及に貢献することができると考えます。		
8. 研究の目的	近年、同種血輸血は免疫機能を修飾しがん患者様の生命予後を悪化させる可能性が報告されています。一方、希釈式自己血輸血は周術期の同種血輸血の頻度や使用量を減少させる可能性が示唆されていますが、明らかにされている有用性は限定的であります。 当院では様々な手術の全身麻酔管理において希釈式自己血輸血を積極的に施行してきました。今回、手術に際し自己血輸血の依頼のあった患者様を後方視的に抽出し、希釈式自己血輸血の施行が周術期輸液輸血管理や全身管理に与えた影響について検討します。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合の方法等)	当科で保存している麻酔記録より対象患者様を抽出し、希釈式自己血輸血の有無あるいは同種血輸血の有無で患者様を2群に分け検討します。該当患者様の麻酔記録やカルテを利用し患者様の輸血量、合併症、入院期間などを確認します。 希釈式自己血輸血が同種血輸血の回避に有用であったか統計学的に検討します。		
10. 個人情報の保護	それぞれのデータは名前等の記載はせず、またデータ自体は個人の特定性が低いため、解析やデータの公表にあたっては各個人の同定は不可能であり、対象者のプライバシーは十分に擁護され则认为ます。収集したデータは麻酔科学講座で保管します。公表後該当患者およびその家族から当検討へ批判や拒否の意向が示された場合には該当患者様のデータを削除します。		
11. 利益相反に関する状況	研究責任者、すべての共同研究者に開示すべき利益相反は存在しません。		
12. 連絡先	弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座		
	電話	0172-39-5113	FAX 0172-39-5112